学校法人 兵庫医科大学

広報

兵庫医科大学 兵庫医療大学

2016年1月号
vol. 233

特集1 平成28年 年頭の言葉

新しい年を迎えて

特集2

「森村茂樹先生 生誕100年メモリアル」を開催

特集3

W快挙!! 上部消化管外科 笹子三津留 主任教授
名誉ある日本医師会医学賞 受賞
ならびにフランス医学アカデミー会員に選出!

石をも貫く矢のように

理事長　新家 荘平

明けましておめでとうございます。平成28年の年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

近年、天の摂理に逆行するかの様に、地球は年毎に狭くなり、国家・民族間に、又、人間社会と大自然との間に深刻な摩擦や軋轢が頻発、“人類は進化する”という御題目が次第に色褪せていく様な鬱陶しい日々が続いていますが、幸いなことに、東洋の日出ずる国には、毎年のように北欧から天空を貫く花火の様に華やかな贈物が届きます。

昨年のわが国のノーベル賞受賞者は山梨大学卒業の大村智氏と埼玉大学卒業の梶田隆章氏でした。これ迄とは一味違って、ご両人は所謂旧七帝国大学卒業ではなく、地方の大学の出身者であることから、全国に散らばるノーベル賞ハンター達は勢(はず)みを得、母校の国公私立の属性から離れて、大いに武者振りしている姿が目に見えるようですが、本学の卒業生についても、例外ではないでしょう。したがって、本学卒の受賞者がストックホルムの受賞式典会場付近の居酒屋で仲間と共に祝杯をあげている光景は、たとえ天文学的な低さの確率のもとで起こる夢のまた夢であろうとも、自らの夢の中で胡蝶に化身したあの荘子ならば目を細めて頷いてくれるかもしれません。

さて、開学40周年という大きな節目から3年目の昨年、これ迄と同じように幅広い年輪が刻まれましたが、同時に年次を縦につなぐ数々の変革の矢も放たれました。

第一の矢。予てからの懸案だった新教育研究棟建設計画が平成30年春竣工に向かって弦から放たれました。精神科病棟の旧六号館はすでに解体され、その跡地の真上には永年の歴史を秘めた真っ青の空が拡がっていますが、やがて、新しい杭打つ槌音が響きわたることになるでしょう。

第二の矢。昨年4月、文部科学省公布の学校教育法改正に準じて、本学の学則も大幅に変更され、学長のリーダーシップの下で、不断の大学改革を可能にするガバナンス体制が強化されることになりました。

第三の矢は、本学に隣接して設置された健康医学クリニックの4月開業です。一般検診と人間ドックのハイブリッドといえるこの施設は最近の予防医学重視の時流に沿ったものですが、大学病院との密な連携はその強みや特色を高めることになるでしょう。

第四の矢は、超高齢化と過疎化の日本の縮図とも言える丹波地域における「ささやま医療センター」を中核とする地域包括ケアシステムの構築です。病院・老健・介護施設を繋ぐシームレスな医療・介護体制の提供は、時代の流れを見透した先駆的なモデルとなることでしょう。

第五の矢。兵庫医療大学は、昨年、文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業」の支援対策校に採択され、教育研究活性化施設・設備の整備のための高額の補助金を受理することになりました。その採択率の難度が高かっただけに当学のスタッフにとっては大きな誇りであり、今後への弾みとなることでしょう。

そして、最後にスケールの大きな鏑(かぶら)矢で、弓を引くことになりました。標的は10年後の1号館本院の再建。これにより新教育研究棟と合わせて大学の両輪が揃い、その偉容は学生、教職員達には高いモチベーションを与えることになるでしょう。

この建設予算としては370億が算定され、今後10年間にわたって、毎年約17.5億の収支差額の上積みが必要となりますが、そのためには本学の全収入の7割を占めている病院機能の更なる強化が求められることになるでしょう。

この点に鑑み、昨年秋には、難波病院長の指揮のもと病院経営改善のためのタスクフォースが立ち上げられ、引き続いて年末には「病院経営改善に関する理事長諮問会議」がスタート、現在、懸案となっている、入院稼働率90%以上の達成、入院患者確保体制の構築、人件費抑制を含む医療経費削減やコスト意識の徹底をはじめとする様々な課題の解決に向かって、本学の全知全能をもって挑戦していくことになりました。

今後、これら様々な将来構想の実現のため、極めて厳しい坂道が続くでしょうが、イソップ物語の、ひたすら明日を思う蟻になりきって絶え間なく血と汗を流していきたいと思います。

新しい申年。天空に放たれた石をも貫くような数々の矢の行方を確認しつつ、本学の建学の精神の具現化に向って邁進していきたいと思います。

兵庫医科大学の益々の発展を願って

兵庫医科大学 学長　中西 憲司

明けましておめでとうございます。皆様のご多幸を心からお祈りいたします。

いよいよ新教育研究棟の建設が始まりました。29年の秋には威風堂々とした新教育研究棟（高さ60m、地上12階、延床面積8万2千㎡、耐震構造、5mの津波にも耐える巨大な学び舎）が、完成いたします。なお、運用は30年の春からです。私達の願いは「安心・安全な教育環境の構築」です。経費は158億円と巨額ですが、私達は一丸となって、学生達が喜ぶ姿を目に浮かべながら、また、思い出が詰まった美しい学舎が、将来卒業生達の母校愛の源泉になることを夢見ながら日々頑張っています。

昨年度は二つの重要な行事を担当いたしました。一つ目は、80年に一度当番校となる公益財団法人医学教育振興財団主催の「第35回国内医科大学視察と討論の会」（9月11、12日）です。私は特別講演「兵庫医科大学の歩み：地域への貢献と研究」で、本学が建学の精神に則り、数々の誇るべき成果を歴史に刻んできたことを話しました。有り難いことに、参加大学の代表者の先生方から、本学の教育と研究の成果に対し、大変高い評価を頂きました。二つ目は「森村茂樹先生生誕100年メモリアル」（11月22日）の開催です。森村先生の4人のお子様とご家族をお招きいたしました。卒業生、名誉教授、現役・OB教職員等々、全員で創設者に、心からの感謝を捧げ、43年間の本学の発展をお伝えし、最後に「父森村茂樹」とともに本学のさらなる発展を誓い合いました。

新教育研究棟の完成で、本学は更にグレードアップいたします。皆様とともに益々の発展を願いたいと思います。

医療大―新たな10年に向かって

兵庫医療大学 学長　馬場 明道

皆様、明けましておめでとうございます。

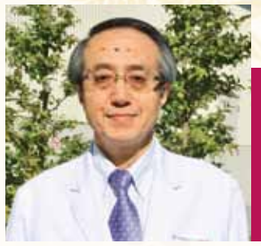
本年は、本学の開学10年目にあたります。私が第2代学長に就任して以来、この3年間、「医療総合大学としての基盤を確固たるものにすること」を重要課題に掲げ、大学の管理運営から、教学の実施に至るまで、種々の施策を立案し、全学体制で取り組んできました。現時点で総括しますと、枠組みはほぼ出来上がりました。また、徐々にではありますが、それらの成果も、着実に挙がりつつあります。

開学からの1stステージでは、内部を固める視点から、当然、活動のベクトルは内向きとなります。それらがほぼ固まってきた2ndステージでは、そのベクトルは次第に外向きになってきます。その意味においても、文科省の種々の教育活性化プロジェクトなどへの積極的申請、ならびに獲得の実績は、大学の取り組みが機能していることの証左と考えています。

本年は、新たな10年に向かって、内向きのベクトルはより強固なものに、外向きのベクトルは方向を定め持続的なものにする必要があります。そのため、これまで作り上げてきた大学の枠組み、種々の取り組みなどを、実質化し、成果を生み出すものにしていくこと、さらに、他大学との差別化を念頭に、学部・研究科単位の向かうべき教学の形を明確にしていくための取り組みを進めたいと思います。

「大学には、変えてはいけないもの、変えなければならないものがある」ということを共通認識に、全学一致で注力したいと思います。

本年も、兵庫医療大学をご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



『守り』と『攻め』

兵庫医科大学病院　病院長　難波 光義

明けましておめでとうございます。

病院長任期の折り返し点となる昨年は、慌ただしく飛ぶように過ぎ去っていきました。先進的な医療を「知」と「情」の両面でバランス良く施すことのできる「良き医療人」の育成の場を目指し、日々精進してきました。5年ぶりの病院機能評価の新バージョン受審は良好な感触で終え、臨床検査部門のISO基準取得（これは、将来の臨床研究中核病院承認にとって必須要件となります）に向けた取り組みも、高い評価を受けて終了することができました。

その一方で、個人情報保護規程に抵触する事案が起こったことは極めて遺憾であり、時まさしく医療事故調査制度の運用開始をはじめ、医療安全や研究倫理面の強化が声高に叫ばれる時代の中にあり、本年はさらに襟を正して医療事故・インシデントの抑止・予防と医療倫理・研究倫理の確立のため、病院長のガバナンスを強化してまいります。

しかしながら、これらはいずれも本院が具備しておかねばならない『守り』ともいうべきものです。法人は昨年、「10年後に新病院棟の建設を!」という新たな目標を掲げました。この夢の実現は、決して『守り』のスタンスだけで達成できるものではなく、果敢に『攻め』のスタンスに切り換えて再出発しなければなりません。本院の経営改革に向けて、職員の皆様一人ひとりの創意と工夫に基づく生産性の向上を援助しながら、無理・無駄・無策の排除も一丸となって実施していく所存です。

『地域社会から信頼され、高品質のチーム医療を提供できる』スタッフが、夢の実現に向けて日々充実感を味わいながら職務に携わる大学病院へと、改革の年のスタートを切りたいと考えています。

地域包括ケアの実践と人材育成に向けて

副理事長、ささやま医療センター病院長　太城 力良

新年明けましておめでとうございます。

ささやま医療センターの将来構想を作成し慢性赤字を解消すべく赴任して2回目の新年を迎えました。具体的行動は、プライマリーケア体制を整備し西宮本院との連携を深めて急性期医療を充実させることと、地域包括ケアシステムに合致する医療を実現することです。高度急性期の重篤な疾病は西宮本院へ搬送し、安定すればささやまの地域包括ケア病床や回復期リハビリテーション病棟で経過観察し、併設の老人保健施設、リハビリテーションセンターと密なチーム医療を行います。さらに、在宅、社会復帰できるように、本年から居宅サービスセンターを立ち上げ、その中に従来からある居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション「デカンショ」、3月設置予定の訪問介護ステーション、4月設置予定の定期巡回・随時対応型介護・看護事業所を置き、近隣の福祉施設・事業所と協力しながら活動を行います。元気な時は自宅で、体調が悪くなれば入院や老健、訪問看護の利用を円滑に行い、地域で愛される病院になりたいと考えています。

ささやま医療センターは、医学生や臨床研修医、さらに他のメディカルスタッフの研修にも大きな役割を担っています。西宮本院では専門分化した高度急性期医療を中心に行っていますが、当医療センターは、将来の家庭医や総合医、訪問看護・リハビリに必要なスキルを学ぶ機会が十分にあり、患者に寄り添い社会的背景を得る能力やプライマリーケアを行う能力を培う場です。

地域に貢献し、地域に信頼される医療センターを目指すには、安定した経営基盤が必須です。教職員一同、従来に増して努力いたしますので、学校法人の構成員や関係者のご協力ご理解をよろしくお願い申し上げます。

学校法人 兵庫医科大学
広報
vol.233/2016年1月号

建学の精神

社会の福祉への奉仕
人間への深い愛
人間への幅の広い科学的理解

INDEX　－ 目次 －

特集1　…1
平成28年 年頭の言葉 新しい年を迎えて

特集2　…5
「森村茂樹先生 生誕100年メモリアル」を開催

特集3　…7
W快挙!! 上部消化管外科 笹子三津留 主任教授
名誉ある日本医師会医学賞 受賞! ならびにフランス医学アカデミー会員に選出!

Campus News　…8
・公衆衛生学の島主任教授 外務省「健康安全講話」を実施
・鳥取県と就職支援協定を締結し、Uターン就職を促進！
・研究計画と統計が学べる臨床研究ワークショップを篠山市で開催
・薬草振興の連携活動に関する協定を締結
・全職員が「認知症サポーター」に認定
・「内視鏡センター」が新たにオープン！
・研究力向上を狙い大型プロジェクトの発展を支援
・第9回保護者懇談会を開催
・入試対策講座＆大学見学会
・第8回兵庫医療大学大学祭「海梟祭」を開催
・第44回兵庫医科大学大学祭「醫聖祭」を開催
・「新型インフルエンザ対策実地訓練」を実施
・「列車事故を想定した救護訓練」を実施
・西宮市医師会と学術講演会を共催
・文科省「私立大学等改革総合支援事業」で3つのタイプに採択
・訪問看護ステーション「デカンショ」開設

The Professional ザ・プロフェッショナル　…14
今だけでなく、未来を見つめて　～見えているものの本質を探る仕事～
兵庫医科大学 病理学（病理診断部門）主任教授　廣田 誠一

卒業生の今　…15
そこにあるのは変えなければいけない現実。世界視点で救命に取り組む
大類 隼人さん

気になる授業　…17
兵庫医科大学「レベルアップ選択科目」／兵庫医療大学「作業活動学実習Ⅱ」

チームの力　…18
～患者さんの栄養管理は私たちに任せて！～兵庫医科大学病院 栄養サポートチーム

知ってる?ささやま医療センター　…18
篠山キャンパス敷地内は遺跡の宝庫?

CLUB 課外活動紹介　…19
表彰および受賞紹介　…20
人事情報　…21
兵医・萌えの会 状況報告／新教育研究棟建設事業募金　…22
報道機関への出演・掲載　…23

「森村茂樹先生 生誕100年メモリアル」を開催

兵庫医科大学の創設者である森村茂樹先生の生誕から、平成28年3月でちょうど100年を迎えます。それを前に、平成27年11月22日の創立記念日、リーガロイヤルホテル大阪にて「森村茂樹先生生誕100年メモリアル」式典を執り行いました。

◆森村先生との思い出を回想する「メモリアル講演会・座談会」

式典当日は、森村先生のご親族をはじめ、卒業生や教職員など約180名が出席。開式を前に、森村先生の在りし日の映像を編集したDVD（約10分）が会場前方のスクリーンに上映されると、学生時代の懐かしい映像を目にした卒業生から思わず笑みがこぼれました。

続いて、新家理事長、中西学長、同窓会緑樹会会長の石藏礼一先生から開式の挨拶があり、第1部のプログラムとして、森村先生の次女で医療法人財団 樹徳会 上ヶ原病院 理事長・院長の大江与喜子様による「メモリアル講演会」がスタート。大江様から、実の娘だからこそ知っている森村先生の性格やエピソードなどが次々と紹介され、会場からは大きな笑い声が上がっていました。

講演会に続いて行われた「メモリアル座談会」では、座長の中西学長をはじめ、森村先生の長男で一般財団法人 仁明会 理事長の森村安史様、大江与喜子様、本学名誉教授の岡本英三先生と吉岡済先生、本学第1回卒業生の末廣 謙先生と服部益治先生がステージに登壇。「森村先生の人となり」について懐かしい話に花を咲かせました。

また、第1部の最後には、森村家を代表して森村安史様から主催者に対して感謝の言葉が述べられました。

◆出席者同士が旧交を温めた「メモリアルパーティー」

別室に場所を移して開催された第2部の「メモリアルパーティー」では、太城副理事長、兵庫県医師会会長の川島龍一様からそれぞれ挨拶があった後、兵庫医科大学の卒業生で現在は本法人で教授を務めている11名の先生方からも一言ずつ挨拶がありました。

その後、森村先生の功績に敬意を表して、後援会会長の米田秀志様のご発声で献杯を行い、歓談がスタート。出席者の皆さんは、久しぶりに再会した恩師や同窓生とともに楽しいひと時を過ごしました。また、パーティーでは兵庫医科大学の校歌を出席者全員で合唱。最後は難波病院長が閉会の挨拶で締めくくり、式典は盛況のうちに幕を閉じました。

森村茂樹先生のあゆみ

1916（大正5年）父・真澄　母・豊の長男として尼崎市宮町で生まれる
1927（昭和2年）真澄　武庫川脳病院開設
1928（昭和3年）尼崎市第三尋常小学校（現明城小学校）卒業
1933（昭和8年）兵庫県立第一神戸中学校（現神戸高校）卒業
1936（昭和11年）第三高等学校（現京都大学）卒業
1941（昭和16年）東京帝国大学医学部卒業　真澄が53歳で死去
1942（昭和17年）軍医として召集、インドネシア・ジャワ島へ
1947（昭和22年）4月に復員、5月に武庫川脳病院長に就任
1952（昭和27年）西宮市医師会理事
1953（昭和28年）武庫川脳病院を武庫川病院に改称
1955（昭和30年）財団法人 仁明会 赤い羽療園設立 理事
1956（昭和31年）医学博士
1959（昭和34年）尼崎家庭裁判所調停委員　新武庫川病院設立 病院長
1960（昭和35年）武庫川児童園設立 理事
1962（昭和37年）西宮市教育委員会委員　日本精神病院協会副会長
1964（昭和39年）厚生省精神衛生審議会委員　樹光会大村病院設立 理事長
1966（昭和41年）日本アルコール医学会 評議員
1968（昭和43年）衛生厚労表彰（兵庫県知事）　児童精神医学会評議員
1969（昭和44年）西宮市民文化賞（西宮市長）
1970（昭和45年）兵庫県医師会 常勤理事
1971（昭和46年）学校法人兵庫医科大学設立 理事長
1972（昭和47年）兵庫県医師会代議員会議長
兵庫医科大学病院長
兵庫医科大学医師会長
兵庫医科大学学長
1974（昭和49年）日本精神衛生会理事　西宮市保健所運営協議会委員
1975（昭和50年）兵庫県精神衛生審議会委員　兵庫県精神衛生審査協議会委員
1976（昭和51年）日本医師会社会保険経済委員　尼崎浪速信用金庫監事
1977（昭和52年）日本熱帯医学協会理事　アメリカ・スポーケン市名誉市民
1978（昭和53年）兵庫県医師会学術審査委員　日本国際医療団理事
1979（昭和54年）医学教育振興財団理事
上ヶ原病院開設
ドイツ・ホンブルグで倒れ、11月24日午前2時24分、
兵庫医科大学病院で肺塞栓症のため死去、63歳
正五位勲三等瑞宝章

W快挙！！ 上部消化管外科 笹子三津留 主任教授 名誉ある日本医師会医学賞 受賞！ ならびにフランス医学アカデミー会員に選出！

日本医師会医学賞 受賞について

平成27年11月1日、上部消化管外科 笹子 三津留 主任教授が平成27年度日本医師会医学賞を受賞しました。この賞は、日本医師会会員で医学上重要な業績をあげた者に授与されるもので、日本医学会分科会長（123学会）、大学院医学系研究科長または大学医学部長・医科大学長（80校）、大学附属病院長（80病院）、関係機関長（65機関）、都道府県医師会長（47医師会）がそれぞれ1名以内推薦した者の中から選出されるという権威ある賞です。

今回受賞した研究テーマは「がん外科手術手技に関する臨床研究法の確立とそれを用いた胃がんリンパ節郭清の標準化」。長年日本臨床腫瘍グループ（JCOG）で取り組んできた外科治療の科学的評価を確立・実施したと評価され、受賞が決定しました。

主な研究成果としては、次のとおりです。

- **がんの外科治療をどうやって科学的に耐えうる臨床試験として実施するかを考案し、実施した。**
- **その方法論に基づいて実施した臨床試験で胃がんのリンパ節郭清の標準化を達成した。**
- **この方法論が他のがん腫の外科治療にも応用されるようになる礎を作った。**

笹子主任教授は、1989年に臨床試験において手術を教える役割でライデン大学（オランダ）へ招聘教授として赴任しました。臨床試験を行う中で、手術法に関する臨床試験の問題点がいくつか浮き彫りになり、それを克服する方法を考え、手術の質が比較的そろった日本でこそ理想の研究が行えると考えJCOGで実施しました。

「ガイドラインでは病気の状況に応じた標準治療を規定しています。それは、場面に応じて着るべき服を決めているドレスコードのようなもの。ですが、同じ服でも個々の患者さんにベストの服をしつらえることは異なる次元のことです。同じ手術でも毎回個々の患者さんに対して最高にフィットする服を作る職人の気持ちで手術に取り組んでいます」

そんな笹子主任教授が多くの手術をこなすようになったのは、国立がんセンターに勤めていた37歳頃から。年間100件以上の手術を行い、通算手術数は3000件を優に超えるうえ、なんと、今年度は年間150件ほどになる見込みだそう。多忙を極めているため、患者さんに手術を待っていただかなければいけないのではという疑念も浮上したのですが、「病気の進行は待ってくれないので、患者さんをできるだけお待たせしないよう、1カ月以内にオペを行うようにしています」と心強い回答が返ってきました。

ご自身のモットーについても尋ねました。

「一人ひとりの患者さんが、どんな病気を持って、どんな不安を持って、どんな環境で治療を迎えようとしているかを常に考えるようにしています。病を治すことだけではなく、環境や患者さん自身についても見るんです。特に、当院へ来られる患者さんは、他の科にもかかっていたり、大変な方が多いと思う。そのような方たちのQOLを考えて生活してもらえるように心がけています」

これからも、兵庫医科大学の後任や若い先生はもちろん、国内や海外からオペを見に来る医師たちも含め、学内外関わらず後進の指導にも力を注ぎたいとのこと。

「私は、患者さんの気持ちが分かる外科医を常に志しているし、彼らにも目指してほしいです」

フランス医学アカデミー会員 選出について

平成27年11月24日、上部消化管外科 笹子 三津留 主任教授がフランス医学アカデミー 外国人会員に選ばれ、12月14日にパリにて任命式が行われました。フランス医学アカデミーとは、1820年にルイ18世によって設立された歴史ある国立の医学アカデミーです。フランス医学アカデミー会員の席数は、フランス人枠195席、外国人枠60席となっていますが、笹子主任教授はこの60席のうちの1席に任命。日本人が選出されるのは稀で、非常に名誉あることです。

笹子主任教授、Wの栄誉ある受賞、本当におめでとうございました。

【笹子主任教授　日本医師会医学賞 受賞コメント】

私がライフワークとして取り組んできた外科治療の科学的評価が、このような形で日本医師会から評価され、大変光栄です。自分の関与した臨床試験でガイドラインが変わることの意義と喜びは、これからの若い先生方にもぜひ味わっていただきたい。ガイドラインはどのような病態にどのような治療をするかを決めるものですが、外科にはもう一つの側面があり、ガイドラインで決まっている治療を個々の患者さんでその人に合わせて最高レベルに実施することです。それには経験の積み重ねも鍛錬も必要です。Science and Artまさにこれが外科の魅力ではないでしょうか。

私を支えてくれた兵庫医科大学 上部消化管外科のみならず消化管内科、臨床病理部、内視鏡部など多くの部署の先生・職員の方々に感謝します。また、一緒に研究をしてくれたJCOG胃がんグループの諸先生、JCOGデータセンター、私をここまで育ててくれた国立がん研究センターの諸先輩に厚く感謝します。

【笹子主任教授の略歴】

1976年 東京大学医学部医学科卒業
1983年 東京大学医学部助手
1984年 フランス給費留学生としてパリ大学留学
1986年 東京大学医学部第2外科医局長
1987年 国立がんセンター病院外科スタッフ
1989年 ライデン大学（オランダ）招聘教授
1991年 国立がんセンター中央病院医長
2006年 国立がんセンター中央病院副院長
2007年 兵庫医科大学特命教授（外科担当）
2008年 兵庫医科大学主任教授（上部消化管外科）

Campus News

公衆衛生学の島主任教授 外務省からの要請に基づき 東南アジアで「健康安全講話」を実施

平成27年9月頃から、マレーシアおよびシンガポールで「煙害（ヘイズ：Haze）」※が発生・悪化したことを受け、外務省は、大気汚染に詳しい専門医から、予防策や対処法に関する正確な情報を在留邦人に提供する目的で、公衆衛生学の島 正之主任教授に協力を要請。要請に基づき現地に派遣された島主任教授は、10月9日から11日までの3日間、両国にて在留邦人（日本人学校含む）向けに「健康安全講話」を実施しました。

マレーシアで3回、シンガポールで2回、計5回実施された健康安全講話では、ヘイズによる大気汚染が健康に及ぼす影響やその対策などについて、島主任教授がさまざまなデータを用いながらわかりやすく説明。質疑応答では在留邦人の皆さんから多くの質問が寄せられるなど、関心の高さが伺えました。

※インドネシア・スマトラ島などにおける大規模な野焼きや森林火災により生じた煙が、南西季節風（モンスーン）により マレー半島やシンガポールに流されることにより生じる煙害のこと。

（写真提供：南国新聞）

真剣な表情で講演内容に聞き入る在留邦人の皆さん

（写真提供：南国新聞）

わかりやすい言葉でヘイズについて説明する島主任教授

鳥取県と就職支援協定を締結し、Uターン就職を促進！

兵庫医療大学は、平成27年10月1日に鳥取県と就職支援に関する連携協定を締結しました。これは、鳥取県の医療を支える人材の育成および確保を目的として締結された協定であり、兵庫医療大学では、鳥取県出身者をはじめとする在学生に鳥取県内での就職に関する情報等を提供し、就職活動の支援などを行うことで、鳥取県内の医療機関・企業等へのUターン就職を促進します。

連携協力の内容は右のとおりです。

鳥取県と兵庫医療大学の連携協力内容

（1）学生に対する鳥取県内の医療機関・企業等の情報、各種就職イベント等の周知に関すること
（2）鳥取県内の医療機関と協力した就職見学会・説明会等の開催に関すること
（3）学生の保護者に対するＩＪＵターン就職に係る情報提供に関すること
（4）学生の就職に係る情報交換及び実績把握に関すること
（5）その他学生のＩＪＵターン就職促進に関すること

研究計画と統計が学べる臨床研究ワークショップを篠山市で開催

平成27年10月30日から31日までの2日間、兵庫医科大学病院 卒後臨床研修センター主催による第3回 兵庫医科大学臨床研究ワークショップが篠山市にて開催されました。これは、文部科学省 未来医療研究人材養成拠点形成事業「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」の一環として、医師や初期臨床研修医を対象に例年開催しているものです。3回目を迎えた今回は、学校法人兵庫医科大学臨床研究支援センターとの共同開催とし、臨床研究に関する教育活動の一環としても実施。学内の医師・学生・事務職員と他病院の医師の、合わせて32名が参加のうえ、森本 剛 教授（臨床疫学）の講義を受講し、グループワークに取り組みました。

今回の参加者は過去最多の32名

参加者アンケートより（一部抜粋）

○印象残ったプログラムは？

- 夜9時から行った臨床研究の計画を行うグループワーク
- グループで行った発表とそれに対するディスカッション
- 医療統計学レクチャー（統計解析ソフトJMPを使用した統計の方法について学んだこと）

○ワークショップを受けた感想

- 臨床計画の流れを体験でき、理解が深まった。
- どのような視点で研究を開始するか分かって良かった。
- 今後、論文作成する際に、非常に役立ちそうだ。
- 臨床研究と統計マジックのギャップを埋めることが大切だと改めて感じた。
- レクチャーとワークショップのバランスが最高です。

熱心な議論が繰り広げられたグループワーク

■10/1（木）

平成27年度 学校法人兵庫医科大学 医療人育成センター認定看護師教育課程入学式が執り行われ、新入生30名が入学しました。

■10/15（木）

臨床研究に関し、定義、実施の際の手続き等、基本的な事項の周知・確認を目的として兵庫医科大学臨床研究講習会を開催しました。

Campus News

丹波市・兵庫県丹波県民局と薬草振興の連携活動に関する協定を締結

兵庫医療大学は、丹波市及び兵庫県丹波県民局と、薬草振興の連携活動に関する協定を締結しました。これにより、次の事項に協働して取り組んでいきます。

- ●薬用作物の栽培に関すること
- ●薬用作物の流通や販売に関すること
- ●薬用作物の新たな加工や商品化に関すること

今後は、丹波薬草産地再生会議の開催や、薬草栽培マニュアルの作成等も視野に入れて活動していく予定です。

～病院を挙げて認知症の患者さんを見守りたい～ 全職員が「認知症サポーター」に認定

日本では高齢による認知症患者の数が年々増加しています。認知症患者は「日常的な場」で症状を発症してしまうと、記憶障害や見当識障害などによって危険な目にあうことも。そこで厚生労働省は、「認知症になっても安心して暮らせるまち」を作るため、平成17年より全国で「認知症サポーター※」の育成を進めています。

この国の政策を受けて、ささやま医療センターでは、今年度中に全職員が「認知症サポーター」になることを病院の目標として掲げることに決定。計3回開催した「認知症サポーター養成講座」には、全職員約350名が参加し、「行政の施策」「病態」「認知症患者に対する対応方法」などについて学びました。その後、厚生労働省が行う「認知症サポーターキャラバン(団体)」により、参加者全員が「認知症サポーター」に認定されました。

今後は、「全職員が認知症サポーターの病院」として、これまで以上に地域の皆さんに頼られるよう運営していきます。

講演内容に聞き入る大勢の職員たち

※ 認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者のこと。

研究力の向上を狙い 大型プロジェクトの発展を支援

平成27年11月4日、第3回 特別研究促進事業「大型プロジェクト構築支援」審査会および文部科学省による私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 外部評価が行われました。

近年、文部科学省によって学術研究の大型プロジェクトが推進されています。これを受け、兵庫医科大学においても、研究力向上及び研究基盤の形成を支援するという目的と、複数講座参加型のプロジェクト研究の発展を支援するという目的のもと、大型プロジェクトの構築を支援する特別促進事業を平成25年に立ち上げました。支援の対象は、学内の3講座以上が参加し、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に応募する研究プロジェクトです。

「大型プロジェクト構築支援」審査会は今年で3回目を迎えましたが、今回は、4つのプロジェクトから応募があり、審査の結果、「子宮内膜症の病態解明、および予防･治療法の開発(代表：善本 知広 主任教授〔免疫学〕)」が採択されました。

また、大型プロジェクトの審査以外にも、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の研究成果について各教員が発表し、外部評価を受けました。

当日は、審査員として独立行政法人理化学研究所、和歌山県立医科大学、大阪大学、大阪市立大学、神戸大学の医学部長等にご協力いただき、学外視点で研究レベルの高いご意見等を聞くことができ、有意義な一日となりました。

小川 啓恭 教授(内科学〔血液内科〕)による研究発表

善本 知広 主任教授(免疫学)によるプレゼンテーション

大学病院ならではの“広さ”と“性能”を兼ね備えて「内視鏡センター」が新たにオープン！

内視鏡検査を行う際、多くの患者さんは鎮静剤や鎮痛剤を使用することで、不安や苦痛が軽減される検査(鎮静･鎮痛内視鏡検査)を希望されます。ところが、検査後に薬剤の効果が切れるまで休んでいただくための場所(リカバリースペース)が、これまでは3床しかなかったため、検査予約待ちの期間が2ヵ月に及んでしまうこともありました。そこで、患者さんの希望に沿った検査･治療をよりスムーズに行えるよう、平成27年11月2日に「内視鏡センター」を約2.6倍に拡充。リカバリースペースを3床から11床に増床することで、1日に検査できる患者さんの数が増え、待ち時間を大幅に短縮することが可能となりました。また、最新機器を導入することで、腫瘍をより細かく見られるようになり、これまで以上に胃がんや大腸がんの早期発見が期待できるように。スペース･性能ともに、大学病院にふさわしい「内視鏡センター」に生まれ変わりました。

	変更前	変更後
場　所	8号館3階 →	1号館6階
広　さ	236㎡ →	620㎡(約2.6倍)
検査室	4室 →	7室
リカバリースペース	3床 →	11床

周りを気にせずゆっくりと休んでいただける、新しくなった「リカバリースペース」

腫瘍状態をより細かく見られる最新の内視鏡機器を導入

第9回保護者懇談会を開催

平成27年10月3日、兵庫医療大学において、年に一度の保護者懇談会を開催し、約450名の保護者が出席しました。担当の教職員から、大学の現況、教育状況、学生生活、就職に関する取り組み、社学連携推進、防災対策についての報告があった後、学部毎に分かれて懇談会及び希望者による個別面談を実施。終了後はレストランで懇親会が催され、なごやかな雰囲気の中、各学部の教員と保護者の交流が行われました。

※平成27年11月21日には兵庫医科大学の保護者懇談会が開催され、約150名の出席がありました。

担当教職員から保護者へ現況報告

レストランにて行われた保護者懇親会

入試対策講座 &大学見学会を開催

平成27年11月22日、兵庫医療大学への進学を考えている高校生を対象として、一般入試に向けた入試対策講座を開講しました。当日は、受験生はもちろんのこと、高校1･2年生も合わせて320名が来学し、大手予備校講師による<英語><生物><化学>の入試傾向や試験対策に関する講義を受講。また、並行して行った大学見学会では、在学生･教職員との交流コーナーや入試相談コーナー、キャンパスツアーに参加することで、大学や入試への理解を一層深めていたようです。

参加者からは「入試対策講座はとてもわかりやすく、これからの勉強に活用していきたいです」「キャンパスツアーでは学生さんが丁寧に案内してくれてとても楽しかったです」といった感想が聞かれました。

真剣な表情の高校生が多々見られた、会場のオクタホール

高校生のさまざまな質問に親身に答える在学生スタッフ

■10/20(火)

平成27年度篤志解剖体慰霊祭が平成記念会館にて執り行われ、ご遺族の方をはじめ、学長、病院長、教職員、学生などが参列しました。

■10/27(火)

兵庫医科大学病院にて消防訓練を行い、さまざまな職種の職員が協力し合って患者役の職員を運ぶなど、緊急時対応を練習しました。その後、消火器を使った消火作業も体験しました。

■10/27(火)

平成27年度兵庫医科大学医学会第1回学術講演会にて、石原 正治 主任教授(内科学 冠疾患科)、新村 健 主任教授(内科学 総合診療科)、竹島 泰弘 主任教授(小児科学)の3名が講演しました。

■11/8(日)

兵庫医療大学学術講演会にて、平井みどり神戸大学医学部附属病院薬剤部長に、「これからの薬剤師活用法～かかりつけ薬剤師の見つけ方」をテーマに講演いただきました。

Campus News

第8回兵庫医療大学大学祭「海鼡祭（かいきょうさい）」を開催

平成27年10月11日と12日に、第8回兵庫医療大学大学祭「海鼡祭」が行われました。今年のテーマは「瞬彩～Shine Your Color～」。大学行事実行委員長を務めた在学生によると、「日々の勉強も大事だけど、この二日間、この瞬間は海鼡祭を楽しんでもらおう」という気持ちを込めて名付けたそうです。

開催中は、コンテストやクラブ・サークルのステージで登壇した友人の勇姿に大きな声援を送る在学生の姿や、ご家族で来学した周辺にお住まいの方がショーや学部体験イベント、模擬店などを楽しむ様子などが多々見られました。兵庫医療大学の受験を考えている高校生の参加もありましたが、キャンパスや在学生の魅力が十分に伝わったことと思います。

今年は天候にも恵まれ、在学生が準備してきた成果を存分に発揮できた二日間となりました。

開会式に先立ち、今年度目覚ましい活躍を見せた野球部・バドミントン部・卓球部に対して、課外活動奨励賞が授与されました。

P棟・G棟間のキャンパスモールには、クラブ・サークルや有志団体による20の模擬店が出店し、3団体が展示を行いました。模擬店には焼き鳥やチュロスなど工夫を凝らしたメニューが、展示ブースには写真サークルの作品などが並び、海鼡祭を盛り上げていました。

芝生広場の特設ステージでは、大学行事実行委員会による学内コンテストやライブイベントが行われ、観客からは大きな歓声が上がっていました。

正門近くに用意されたエア遊具も大人気で、周辺にお住まいのお子さんたちによる長蛇の列ができました。

第44回兵庫医科大学大学祭「醫聖祭（いせいさい）」を開催

平成27年11月21日と22日の二日間、第44回兵庫医科大学大学祭「醫聖祭」が開催されました。新教育研究棟の工事に伴い、昨年までの会場であった5号館南側の中庭が使用できなくなったため、今年は平成記念会館をメイン会場としての実施でした。

スローガンは「獅子奮迅 ～A Centennial Anniversary of Dr. Morimura's birth～」。第44回を「獅子」とかけ、大学祭に対して獅子のように奮闘したいという思いから名付けるとともに、学校法人 兵庫医科大学の創設者である森村茂樹先生の生誕100周年であることもサブスローガンに入れたそうです。

講堂では、クラブ対抗 武庫川オリンピック、森村クイズ、ビンゴ大会、軽音楽部ライブ、Mr.&Ms.コンテスト、ダンス部パフォーマンス、カラオケ大会などが行われたほか、初日は元・阪神タイガースの藪 恵壹氏による医学講演会、二日目は笑い飯・バンビーノ・ギャロップによる芸人お笑いライブが行われ、小さなお子さんから年配の方まで一般の方にも多数ご参加いただきました。

会館西側の駐車場では、各クラブによる模擬店が並び、焼きそば、水餃子、フランクフルトなどが販売されたのに加え、孔子学院による中国茶の無料配布も。また、毎年恒例の医療器具展示も行われたほか、文化系クラブは実績をパネルに展示したり、ライブを行ったりして、日ごろの活動をPRしました。

5月に大学祭実行委員会が発足してから、学生たちは学業の合間に準備を続けてきましたが、コンテンツも盛りだくさんで、来場者が大いに楽しむ様子が見られました。新しい形で実施した大学祭は、次年度以降につながる成果を出し、大盛況のうちに幕を閉じました。

今年のスローガンは獅子奮迅

初めて平成記念会館がメイン会場に

元・阪神タイガースの藪 恵壹氏による医学講演会

観客からの笑いが絶えなかったステージ

ささやま ～他病院の専門外来で受け入れができなかった場合を想定～「新型インフルエンザ対策実地訓練」を実施

平成27年11月17日、ささやま医療センターで「新型インフルエンザ対策実地訓練」を行いました。この訓練は、丹波健康福祉事務所の主催のもと毎年異なる病院で行われており、院内外の医療者約50名が参加しました。

当日は「新型インフルエンザの感染者に接触し、経過観察中だった男性が発熱したが、専門外来をもつ病院が満床だった」という想定で訓練を開始。それぞれの担当者がシナリオに沿って行動し、「保健所からの患者受け入れ要請に対する手続き」や「患者から医療者が感染しないための方法」などについて実践的な訓練を行いました。参加者は「周りの病院が患者さんを受け入れられなかったときに、ささやま医療センターが何をすべきか勉強になった。今後も訓練を続けていきたい」と述べるなど、地域に根差した病院の職員として自覚した様子。マスコミ関係者も取材に訪れ、社会的に注目された取り組みとなりました。

平成27年11月18日
神戸新聞 朝刊 25面

ささやま 地元の関係機関と合同で「列車事故を想定した救護訓練」を実施

平成27年12月8日、JR篠山口駅構内電留線にて、ささやま医療センターと兵庫医科大学病院 救命救急センターが、JR西日本・篠山市役所・篠山警察署・篠山市消防本部と合同で「列車事故を想定した実践的な救護訓練」を行いました。

この救護訓練は、平成17年4月25日に発生したJR福知山線列車脱線事故を忘れないために、上記の関係機関が緊密に連携を図りながら、人命を最優先とした対応能力の向上を図ることを目的に毎年実施されているもの。訓練当日は、「踏切内で立ち往生していた大型トラックに快速電車が衝突し、負傷した多数の乗客が列車内に閉じ込められている」という想定のもと、乗務員等による負傷者の誘導訓練や、救出・救護訓練、救護所設置およびトリアージ訓練などを実施。事故発生の際に、各機関が協力しながら迅速かつ的確な初動対応を行えるよう、課題などを確認しあいました。

訓練に参加するささやま医療センターの職員

大学病院 西宮市医師会と兵庫医科大学病院が学術講演会を共催

平成27年11月19日、西宮市医師会と兵庫医科大学病院が学術講演会を市内で共催しました。これは、地域との連携強化のために定期的に行われている会です。今回は「見逃してはならない循環器疾患」というテーマで、参加者は院外から45名と院内関係者18名の合計63名でした。

会の冒頭で西宮市医師会の大江 与喜子 会長にご挨拶頂き、続いて石原 正治 主任教授（循環器内科・冠疾患内科）が「胸痛、背部痛、どのようなときに心疾患を疑うか」という演題で特別講演を行いました。また、パネルディスカッションでは「日常診療で見逃しやすい循環器疾患 －不明熱と循環器疾患－」をテーマとして、実際に市内の病院・医院・兵庫医科大学病院で連携して診療した患者さんの症例について検討。増山 理 主任教授（循環器内科・冠疾患内科）が座長を、宮本 裕治 主任教授（心臓血管外科）、合田 亜希子 講師（循環器内科・冠疾患内科）、市内の病院・医院の先生2名がパネラーを務め、参加者とともに議論を深めました。

■11/14（土）

平成28年度入職内定者を対象に、「看護職員内定者交流会」をノボテル甲子園にて開催し、内定者129名の参加がありました。

■11/19（木）・12/1（火）

医療専門職と事務職の若手職員を対象に「若手・異職種交流会」を実施し、グループワークなどを行うなかで他職種との交流を深めました。

■11/25（水）

天津医科大学（中国）より、産婦人科の王 穎梅 教授と外科の王 浩教授が来日し、兵庫医科大学病院を視察した後、「平成27年度国際交流シンポジウム」にて特別講演をされました。

■12/4（金）

兵庫医科大学病院 男性看護師会Brother'sと法人 男女共同参画推進室が、「男だらけのコメディカル交流会」を共同で開催しました。